

## 令和5年度中間市総合教育会議会議録

- 1 日 時 令和5年12月15日（金）15時
- 2 場 所 市庁舎別館3階 特別会議室
- 3 出席者 市長 福田 浩  
教育長 蔵元洋一  
教育委員 河本直子、衛藤修身、八木秀和、太田かおり
- 4 欠席者 なし
- 5 参加者 副市長 田代謙介  
総務部長 後藤謙治  
市長公室長 岩切晶子
- 6 事務局 教育部長 北原鉄也  
教育部参事 森 秀輔  
学校教育課長 船元幸徳  
教育施設課長 清水秀一  
生涯学習課長 亀井 誠  
学校教育課課長補佐 野中康伸  
学校指導課課長補佐 権藤信慶  
教育施設課計画係長 山口研治  
学校教育課教育総務係長 秦 薫
- 6 傍聴人 13人
- 7 議事次第 別紙のとおり

# 中間市総合教育会議事次第

令和5年12月15日（金）15時00分

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 議事  
学校施設再編による充実した教育環境の構築について
- 4 市長のことば
- 5 教育長のことば
- 6 閉会

[開会時刻：15時00分]

- |          |   |
|----------|---|
| 北原教育部長   | 皆さま、こんにちは。本日の進行を務めます教育部長の北原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。<br>それでは、ただ今から令和5年度中間市総合教育会議を開催いたします。議事進行につきましては、会議次第に沿って進めさせていただきます。まず、最初に福田市長からご挨拶をお願いいたします。  |
| 福田市長     | 皆さま、こんにちは。<br>本日は、年末の大変お忙しい時期に、お集りいただきまして誠にありがとうございます。<br>本日の議題であります「学校施設再編による充実した教育環境の構築」につきましては、本市の宝であります子どもたちが通いたいと思ってもらえる学校、保護者の皆さまが通わせたいと思える学校、教職員の皆さまが、中間市の学校で働きたいと思ってもらえる充実した教育環境の構築を目指した、一大プロジェクトでございます。<br>昨今の世界情勢や物価の高騰など、目まぐるしく環境が変化する中で、「教育大綱」の掲げる理念である「次世代を担う教育の実現」に向けて、教育委員会と市長部局が一丸となって、取組を進めてまいりたいと考えております。<br>本日は、ぜひ、時間の許す限り、議題に沿って忌憚のない意見交換を行うことができると思っております。<br>どうぞよろしくお願いいたします。 |
| 北原教育部長   | ありがとうございました。<br>それでは、議事に入らせていただきます。<br>議事につきましては、中間市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定によりまして、福田市長に進めていただくことにしております。<br>それでは、福田市長、よろしくお願いいたします。   |
| 福田市長     | それでは、ご指名によりまして、進行を務めさせていただきます。<br>どうぞよろしくお願いいたします。<br>では、「学校施設再編による充実した教育環境の構築について」説明をお願いいたします。   |
| 清水教育施設課長 | 教育施設課の清水でございます。<br>学校施設の整備方針案について申し上げます。  |

一つ目に、「中学校4校を2校への再編」でございます。

現在、中学校4校は全て12学級未満の小規模校となっております。今後、生徒数が減少していくことが見込まれますことから、将来にわたって1学年3学級を確保できるよう2校への再編としております。

また、十分な教員配置を行い、学習環境や指導環境の充実を行うとともに、体育会、文化祭、部活動など生徒間の交流がさらに行えるようにしてまいりたいと考えております。

さらに、これまでの住民説明会やパブリックコメントにおいて、大規模校に対する不安、また、指導が行き渡らないのではないかなどの意見をいただいております。

また、国の基準では、中学校の通学圏は6kmとされておりますが、現在、当市では、半分の3kmとなっております。

再編し、2校となりましても、3kmの通学圏は維持できるものと考えております。

二つ目に、「中学校を先行した再編」でございます。

現在、ICT教育をはじめとする教育内容が我々の時代とは比べものにならないくらい目まぐるしく進歩しています。その中で、学力の向上や学校生活全般の活性化、不登校の子どもたちへの支援、特別支援教育の充実など中学校に関わる問題は山積しています。

中学校の生徒には、義務教育の次のステージに向けて最大限の支援を行ってまいりたいとの考えから先行して行おうとするものです。

小学校の再編につきましては、通学方法や給食の運営に加え、ほとんどの学校が避難所となっており、何より、当市の場合は、他の市町村に比べても、小学校を核とした地域コミュニティがより強固に形成されており、まちづくりや児童の見守りなどの観点からも小学校の再編にはさらなる検討が必要になります。

このことから、先行する中学校の再編のノウハウを十分に生かしながら、策定委員会の結論である小学校6校を3校以内に再編するといったものは尊重しつつも改めて適切な時期に配置や開校時期を検討することとしております。

三つ目に、「学校敷地を活用した再編」でございます。

学校敷地には、敷地の形状が比較的良い場所もあれば、敷地の一部が土砂災害警戒区域や浸水想定区域内にある場所、また、法面や段差が多く校地面積は広くても使用可能な面積が少ない場所など、様々な特性があります。

このことから、危険性のある場所は避け、また、有効敷地面積を最大限生

かし活用できる場所を地理的な特性・配置のバランスも考慮しながら検討いたします。

また、コミュニティ広場につきましては、市民図書館、体育文化センターなどの既存施設との複合化の実現に時間を要することや通勤、通学時間帯の交通量の多さなどについての不安を感じるといった意見が住民説明会でも寄せられたことから、コミュニティ広場は活用せず、学校敷地を活用することにいたしております。

四つ目に、「令和10年4月の開校を目指した新中学校2校への再編」でございます。

これまで教育委員会事務局では、学校規模の組み合わせ案に学校施設の配置案を加えた学校施設整備方針案をとりまとめ、保護者や住民の皆さま方から様々なご意見をいただきながら、令和9年4月の新中学校開校を目指してまいりました。

また、本年4月には、市長に「学校施設再編による充実した教育環境の構築についての提言」をさせていただき、現在、市長部局では学校敷地の跡地利用を含めた市全体のまちづくりについて部局横断的な検討がなされております。

市長部局では、将来の市全体のまちづくりを含めた検討が必要であるため、方向性の決定に時間を要している状況でございます

また、今後、学校施設整備方針決定後も開校準備協議会などにおいて、保護者や子どもたち、住民の皆さま、そして教職員のご意見を十分に反映した学校づくりを行う必要がありますことから、新中学校の開校年度を令和10年4月に見直した上で、充実した教育環境の構築に取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

福田市長

説明ありがとうございました。

それでは、議題についての意見交換に入らせていただきます。

本日は、せっかくの機会ですので、充実した教育環境の構築につきまして、教育委員の皆さまと活発な意見交換を行うことができると考えております。

それでは、どなたかご意見等がある方はいらっしゃいませんか。

それでは、こちらから指名させていただきます。ではせっかくですので、まず太田教育委員お願いします。

太田教育委員

今ご説明がありました4つのポイントに関してですが、まず1番の中学校4校を2校に再編ということに対しまして、将来的な子どもたちの数等を

十分にシミュレーションした上でこういった原案が出ていることにつきましてには賛成でございます。やはり、子どもたちの通学路の安全の確保と教育の質の保障の点では、学校のクラス規模について1学年の学級数が少なすぎても教育上あまり良くないですし、多すぎてもというところがありますので、そういった意味でも持続可能な3学級確保という視点が現実的ではないかと考えております。2クラスなどにクラス数が減らないことが非常に重要なことだと思っております。それから通学路も子どもたちが通ってこられる距離感というのもございますので、そういった配慮から4校を2校へという原案につきまして、私は賛成でございます。

それから、教育は時代に合わせて変わっていかねばならないということもございまして、現在ICT教育は政府のGIGAスクール構想も含めまして時代に合わせて変わってきております。本市でもWi-Fiの整備やタブレットの配置整備は進んでおりますけれど、それらを十分に活用できるような教育環境を整える。例えば、今の教室のサイズです。学校訪問等で子どもたちが勉強しているところを見学させていただいていますが、やはり今教科書がA4サイズで大きくなってしまっていて、それにタブレットもあります。落としてしまうと壊れてしまうようなものが教具ですが、それを子どもたちが机に置いて勉強しております。そういったときに机のサイズが小さすぎるので、今の教材を子どもたちが使いこなせるように教室や机のサイズを変えていくことが必要だと感じています。

また、入学式に参列させていただいたときに、先生方がバタバタしていたことがあり、教室の後方の棚にランドセルを初めて入れるのですが、早速ランドセルに傷がついてしまったということがありました。ランドセルもサイズが大きくなり、教室の棚に入りきれない、それを無理に押し込むと傷がついてしまうということもありますので、新しい教室で充実した教育を受けていくことが非常に大事だと思えました。

それから、今福田市長がおっしゃられたように、子どもたちが通いたい学校、保護者が通わせたい、教師が中間市で働きたいと思ってもらえるような学校というのは、私も大賛成です。それに付け加えまして、他県、他市の方が中間市に住みたいと思うような教育とまちづくりがあわせてできれば素晴らしいと思います。以上でございます。

福田市長

貴重な意見をありがとうございます。

それでは続いて、河本教育委員お願いします。

河本教育委員

私は、先程の説明を聞きまして、中学校が2校ということで安心いたしま

した。小学校1校、中学校1校ということに市民から根強く反対があって直接「それだけはしないでください」と言われることもあったので、そのことはとても心配しておりました。

それから、私はスクールバス導入に反対です。なぜならば、何よりも健康面で歩くことの大切さを感じるからです。風や気温や四季折々の木々や花々の移ろいを体感したり、お友達と話をしたり、そういった事が情操教育を育む上でとても大切だと思うのです。そして、学力と体力には密接な関係があるとよく聞きます。特に大学入試は体力勝負とも聞きます。また自立的に歩いて学校に行くのと、乗り物に乗って学校に行くのでは、授業に取り組む気持ちも変わってくるような気がいたします。交通量の多い中、歩いて行くので、事故が起こるのではと心配される保護者の方もいますが、私もそのことは心配ですが、昨今のニュースを見ておきますと、スクールバスならば絶対に安全だとは言えないと思うのです。特に中間市では保育園バスで痛ましい事故があって、どうしてそういう中でスクールバスの話が出てくるのかと怒ってらっしゃる保護者もいます。また、乗り遅れやランニングコストなどを考えると問題が多すぎる気がします。

それから中間市は遠賀川を挟んで東西に分割されておりますが、それぞれの地域の良さを生かして、それぞれの地域に最低でも小中1校ずつは配置していただきたいと思っています。定例教育委員会でも1度お話したことがあり市民の意見にもありますが、西部地区はとても自然に恵まれるのどかで住むのに環境の良い地域です。また、鞍手インターができたことにより北九州方面などから福岡に働きに行く方が増えているということですが、そういう方々にインターにさらに近い中間市に住んでいただけるよう住宅街として、さらに発展していけるようなまちづくりをやっていただけないかと思っております。なぜならば、私は中間東小学校出身なのですが、当時中間市は北九州市で働く人々のベッドタウンとして通谷が開発され、クラスに優秀なお友達がどんどん転校してこられ、とてもよい刺激を受けました。また市としても、どんどん発展していきました。現在、中間市の学力が全国平均をほぼ上回って大変良い状態ということ、広報に長けていらっしゃる市長にPRして人を集めていただき、中間市が第2のベッドタウンとしてさらに発展してほしいと思っております。

それから、ある程度構想ができた時点で、子どもたちに積極的に意見を聞いたりすることによって、この取組に参加させていただきたい。例えば、作文や絵をかくことによってどんな学校にしたいのか、思いを形にすることによって夢を描いていただきたい。また、良い意見は積極的に取り入れていただきたい。あるいは、制服や鞆のデザインなどを募集して実際に制

作するというのも一つの方法ではないかと思っております。そういうことをすることによって新しい学校は自分たちも一緒に作った学校だということを感じ、学校が大切だという気持ちを育んでもらいたいと思います。

それから、私は特にセキュリティ強化に力を入れていただきたいと思います。外部から侵入者が入り難い、入ってもすぐに発見できるような学校作りをしていただきたい。そして特別支援教室においては、飛び降りてしまうような事故があってはいけないので、そういうことがないように、できるだけ低い階に設置していただきたいと思います。以上でございます。

福田市長

ありがとうございました。それでは続いて、八木教育委員をお願いします。

八木教育委員

よろしくお願いします。私は今年の1月から教育委員を仰せつかっているので、今回初めての総合教育会議で少し緊張しているのですが、2人の子どもが市内の学校に通っている親として、今回この件について考えさせていただきました。まず、4校から2校への中学校の再編ですが、これについて私は賛成です。当初私は中学校に関しては、1校でも良いかと考えておりました。ただ、この問題をいろいろな人と話していく中で、私はPTAの会長もやっているのですが、いろいろな会長さんと話す機会も多く、その中でいじめの問題等はないにこしたことはないのですが、ゼロにすることは難しく、その時の子どもの逃げ場という意味で転校は、一つの方策と申しますか、そういった環境が必要ではないかと思ひ、学校の規模から見てもやはり2校というのが適切ではないかと思ひました。今回この件について私は4点考えさせていただきました。

まず1点目は、効率化です。日本は資源の少ない国ですので、人間が唯一の資源といっても過言ではないと思ひます。だからこそ、そういった人間を育てるといふ高度な教育が必要ではないかと常々思ひます。公立学校なので、財源には限りがあることは私たちがわかっております。それならば、その限りある資源を最大限有効に効率的に使っていただきたいとすごく感じます。

今、中学校が4校ありますけれども老朽化した校舎を使い続けるよりも、ある程度集中して最先端の設備を備え周りの地域の方が羨むくらいの学校にしていきたいと思ひます。それから効率化という面で見ますと、私の息子は今中学2年生ですが、私が中学生の頃に比べると、部活動の種類がすごく少なくなっています。あったとしても団体スポーツなのに部員が3人しかいないというのが当たり前のようにあります。やはり部活



動というのは、勉強と同じように友達環境を作ったり、将来のために必要なことだと思います。しかし、そこにはやはりお金が関わってくることで、私も経験がありますがクラブチームとなると野球、サッカーと盛んに行われていますがやはりお金がついて回ります。その中で公立学校の部活動というのはお金をあまりかけずに行えるというメリットがあります。でも今の現状では部活に入っても3、4人。試合は合同でやっていますが、十分に練習はできない。それだったらクラブチームに行ってくれということになるが、お金が関わってくるため、行ける子は良いですが、行けない子もいるという状態が出ています。そういった意味で公立学校の部活動がある程度しっかりした受け皿である状態でないといけないと思います。できれば再編前から今もう動いていただいているようですが、一刻も早くそういった子どもたちの受け皿として活躍できる場を作っていただきたいので、そういった意味でも、再編していただきたいと思っています。

それから、2点目はスピード感です。この話が出て数年経ちますけれど、私自身、少し停滞しているなと思います。保護者からも「あの話どうなったの？」という声も聞かれます。乗り越えなければいけない課題が満載すぎて、なかなか前に進めないというのはわかります。この立場になって授業参観以外で学校に行く機会が増えました。特に先日ですが、先程太田教育委員が言われました机の問題です。iPadや教科書、ノート、筆箱があって当たり前前で、全部を机に置けません。私の中2の息子のクラスは、40人学級です。机の大きさは昔と変わっていませんが、今の子どもたちは発育も良いので、40人では教室がぎっしりになっています。授業参観では窮屈すぎて、親が教室に入れない状態です。そういう状態です。子どもたちが勉強している環境を早く改善していただきたいと思います。そういう意味で、もっとスピード感を持っていただきたいと思ひますし、そういった状態なのに学校には空き教室が多いという私たちの頃の学校と比べると寂しいと感じます。

それから、3点目は、通学路の課題についてです。私は親として安全は全てのことに優先していただきたいと思ひます。当然、学校数が減ることとは、校区の再編が行われ、そうすると、例えば橋を渡る生徒が多くなるだとか、新しい通学路になることによって事故が起こる可能性が高くなるかもしれないし、低くなるかもしれない。新しいことをやらせることになるので、現在の見守り隊の活動を今後も継続してやっていただきたいです。また、私たち保護者もそういう方たちの協力があって、安全に子育てができているという認識と感謝の気持ちを持っていただきたいと

思っています。

最後に4点目は、今後の説明や話し合いについてです。この話については、私たち保護者にしても痛みを伴うことになるかと認識しております。我を通せる話ではないし、私たちも覚悟はしています。であるならば、痛みを伴っても、それにふさわしい学校設備にして、周辺地域が羨むような中間市に住んで、中間市の教育を受けさせたいと思うくらいの施設にさせていただきたいと強く思います。また、痛みを伴う事もありますので、そういった意味では住民説明会やPTAの話し合いに参加していただくとか、説明会に関してオンラインを活用するなどそういった試みを十分検討していただきたいと思います。以上です。

福田市長

はい、ありがとうございます。続いて、衛藤教育委員をお願いします。

衛藤教育委員

今、それぞれの意見が出されましたが、この総合教育会議で学校再編の問題を取り上げたのは初めてです。それまで学校再編という問題は市民にかなり様々な情報が間違っって提示をされていた部分もあると思いますが、基本的な事柄を私は6つの点から話をしていきたいと思います。

1点目は、是非新校舎に再編してほしいということです。

2点目は、1校での再編は校地の確保が無理だと思うということです。

3点目は、通学バスを利用しない再編をした方がよいということです。これは先程、河本教育委員もおっしゃられました。

4点目は、学校間でお互いの学校同士の切磋琢磨が可能になるような再編をしてほしいということです。

5点目は、中間市の歴史性を尊重してほしいということです。

6点目は、学校が持っている力を利用した学校再編とまちづくりを是非生かしてほしいということです。

6つの観点から意見を言いたいと思います。今回の学校再編は市民の意見を踏まえられて進められ、これまでパブリックコメントを市民へ発信されていましたが、5月の広報なかまで「整備方針の策定に向けた検討を皆さんの意見を踏まえ、全庁的な運営・協力のもと進めています」という発信が最後です。それから、半年間この問題は、市民に向けての情報発信が行われていません。そこで、住民説明会に多くの人に参加してまいりましたが、その方たちは住民説明会で提示された学校再編に向けての5つのパターンが示されましたので、このことをどのような形でまとめられるのだろうという認識になっていると思います。そのことを受けての今回の会議ですが、5つの中の3つのパターンが、1校での再編が示されています。1

中学校での再編には私は大きな無理があり、現実的に不可能なパターンだと思います。なぜかと言いますと、具体的な理由は中間市学校施設整備方針案で示されている児童生徒の将来推計は、2025年は中学生は862人、それからこの再編のために2040年を目標とされていますが、2040年は推計では845人となっています。ほとんど変わりません。そうすると、2024年の862人の今、文科省が指定している学校基準40人で1学級だとすると、中学校1校では22学級が必要です。それ以外に、特別支援学級等いろいろなものが必要になってきます。そのパターンに合う学校を探してみたら東中がパターンに合いますが、設備や生徒の安全を考えたときに、東中は校舎の下にグラウンドがあります。階段を降りてグラウンドに行かなければならないという状況です。そういう状況を考えてみたときに、地震が発生したら階段を22学級のみんが降りるということは物理的にも不可能だし、当然大きな危険も伴いますので、今のままの東中を再利用するということはできないと思います。その他の学校では、1校22学級プラスアルファでの規模はありませんので、今の学校を利用するということは不可能です。もう一つは、コミュニティ広場に1校を建てるという話も出てきました。5つの案の中に、コミュニティ広場の案もありますが、中学校1校だと約40学級が必要になると私は思いますので、それをコミュニティ広場に建てるとしたら、建てられないことはないだろうが、それ以外にプールがあり、プールはスタンド付のプールが良いと思いますし、武道場、体育館、それ以外に情操教育や自然共生教育を考えて中庭に花壇などを作り、植樹するなど広々とした感じの学校作りがコミュニティ広場でできるかと考えたら、私は不可能だと思います。

それから、11月1日に東中へ行きまして、八木教育委員がおっしゃるとおり2年生の学級は40人です。子どもは入りましたが、子どもは窮屈そうでした。机の上にタブレットを置いて教科書を開くと他のものは置けない、ノートを広げられないという効率的な学習ができない状態です。市民向けの住民説明会のときに福岡の新しい学校がビデオで映されました。そのときの学校は教室が広くて廊下も広々としていました。そういう学校に合わせるように今の施設を造り替えるとするのであれば、大黒柱を全部壊して新しい大黒柱造り替えていく手法は無理だと思います。住民説明会で提示された現校舎の移設または移転は絶対に考えず、市内の保護者や若い人たちはもちろんのこと他の市町村の若い人たちが憧れ、学びたいという思いの新校舎にしてほしいというのが私の意見でございます。

それから、通学バスの問題です。保護者から現代の車社会から子どもを歩かせるのは可哀想になる、あるいは何か方法がないかというような意見が

出ると思います。しかし、中間市は過去1校しか学校がありませんでしたので、40分から50分歩いて登下校していました。何年もそういうことを繰り返してきて、私もそこに務めていましたが登下校についてクレームがあることはありませんでした。だから40分くらい歩かせても良いのではないかと思います。今の時代ですから、それは酷なのかと迷いもありますが、現実問題通学バスを利用することになると乗り遅れた子たち、あるいは体調不良で早退しなければならない子は歩いて帰れない、場合によっては保護者が迎えに来て、先生が家庭まで送ることになり、そういう対応等様々なことを考えると通学バスは無理だと思います。

それから、次に学校間の切磋琢磨できるような再編にしてほしいということですが、実は以前、大津市のいじめ問題が毎日のようにテレビで報道されていた時に、教育委員会が主催で、いじめ問題について4中学校から生徒会の代表に参加してもらってシンポジウムを行ったことがあります。この狙いは、いじめ問題の防止や解決のためには、先生や保護者の力だけでは限界があるので、生徒の持っている中学生の発想や考えを引き出しながら、いじめ問題の解決を先生・生徒・保護者が一体となり取り組んでいくことでした。シンポジウムでは「いじめをなくすために自分たちは何ができるのか」「自分たちの力でいじめを生まないことは可能だろうか」等を意見交換する中で、他校の意見や考えを聞いて、自らの学校での取り組みの甘さや不十分な点に気づき、新たな発見や新しいエネルギーを生み出し、お互い同士が強烈的な刺激と影響を受け、反省しながら学校全体としていじめ問題に取り組んでいこうとする新たな決意と行動、そして学校全体としての具体的な活動づくりにつながっていったと思っています。こういった学校間の切磋琢磨の影響で適切な刺激や見直しによる生徒の意識改革とともに、学校を徐々に変える力になった経験から、学校間の刺激や競争のできるような学校再編を考えるべきだと思います。

それから、中間市の歴史性を尊重した学校再編にさせていただきたいということですが、先程河本教育委員から言われましたが、中間市は遠賀川を挟んで川西地区と川東地区に分かれています。川西地区は昔底井野村、川東地区は中間町として中間市ができる前に町として統廃合され、それから現在に至っています。その流れの中で川西地区は農村地区としての風土、生活習慣、いろいろな地域に対する貢献などをやってきたと思いますし、川東地区は北九州地区のベッドタウンとして開発され、その前は、石炭産業の中核を担っていました。それから、商業地区として今に至ったと思います。川西地区と川東地区の存在は非常に大切なものですから、それぞれの存在を生かして、それぞれに学校を作っていただきたいと思います。

それから最後になりますが、まちづくりと学校の関係になりますが、私が思うには学校は人を呼び寄せる力を持っていると思います。あの学校があるからここに住もうと人を呼び寄せる力があります。実は、東中の周辺にたくさんの住宅ができましたのは、その学校のもたらす影響力だろうと私は思っています。そのような影響力のある学校を中心として、まちづくりができてきたところがありますから、そういうことを大切にしていってまちづくりが少しずつ出来上がっていくと思いますので、学校を中心としたコミュニティを作ってください、それをまちづくりと学校再編に生かしていただきたいと思っています。

いろいろなところを見てみますと、今一番力を入れているのは学校再編に向いていますが、学校跡地が残っています。この学校跡地を再利用して、まちづくりをしようということで、今、学校再編をされている取組はどのような視点にも力が注がれているようです。

いろいろな角度から、いろいろな話をしましたが、以上6つの点から意見を述べさせていただきました。

福田市長 貴重なご意見ありがとうございました。では、4人の教育委員の皆さまから本当に忌憚のない素晴らしい学校に対する思い、そして意見をいただきました。4人の話を聞いて、更に付け加えたいという方はいらっしゃいますか。ご意見ございますか。衛藤教育委員。

衛藤教育委員 今私が説明したことは、学校再編に関する問題で、これが今絞られて教育施設課の方から中学校を2校にするという具体的な話が出ました。初めて具体的な話が出ましたので、ここから進んでいくのだろうと思いますが、これからは学校をどう建てるか、どのような施設設備を充実させていくか、どのような教育効果をもたらせるために学校と内容を整理していくかについては、私は意見を言っていない。それは個々に具体的な話が出てきたときに言わせていただきたいと思いますので、付け加えさせていただきます。

福田市長 ありがとうございます。おっしゃるとおりで、仏造って魂入れずと言うようなことはしていただきたくないということですね。  
何か他にございますか。

それでは、これから更に再編を進めていく際に、皆さまの貴重なご意見を元に今おっしゃられたように、みんなの中間市の学校ですから様々な意見を聞き、そして憧れられるような学校づくり、こういうことを私も非常に

おっしゃるとおりだと思います。そのためにも、市長部局も教育委員全ての方たちが本当に真剣になって迅速に、ただし慎重にこういうことを踏まえてやっていきたいと思います。それでは他にないようですので、本日は本当に皆さまご意見ありがとうございました。何度も申し上げますが、本市の宝であります子どもたちの教育環境をより良いものとしていくことは、私としても喫緊の課題であると認識しております。老朽化した施設ではなく、現在そして将来を見据え、時代のニーズに合った新しい施設設備の中で、教職員の皆さまが負荷なく、容易に教育機器等を活用し、子どもたちと向き合い、学力の向上や豊かな心、健やかな体づくりに取り組んでいただきたいとそれに加えて、中間市の歴史、これをぜひとも子どもたちに根付かせるそういったまちづくりをしていきたいと考えております。私たちは、本市の将来を担う人材の育成に取り組んでいることを改めて認識し、誰一人として取り残すことなく、達成感や成就感を味わえる学校、子どもたちの成長に喜びを感じることができる学校を目指し、これからも教育委員の皆さまと一丸となって、教育環境の向上に取り組んでまいりたいと考えておりますので、ますます皆さまご協力よろしく申し上げます。それでは、北原教育部長にお返しいたします。

北原教育部長

福田市長ありがとうございました。  
それでは、次第の4、市長のことばに移ります。  
本日の会議につきまして、最後に一言お願いいたします。

福田市長

改めまして、本日は、年末の大変お忙しい時期にお集りいただきまして、貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。  
限られた時間ではございましたが、子どもたちの教育環境の向上に向けまして、有意義な意見交換を行うことができたと感じております。  
市長部局といたしましても、教育委員会と一枚岩となって充実した教育環境の構築に努めることができるよう、引き続き、教育の充実という視点を重視しつつ、将来のまちづくりや財政面、跡地活用の観点など総合的な視点から学校施設の配置の検討を進めてまいりたいと考えております。  
今後も本市の宝である子どもたちにより良い環境を提供するため、引き続きご意見等をいただくことができましたらと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

北原教育部長

ありがとうございました。  
続きまして、次第5、教育長のことばです。

蔵元教育長、一言お願いいたします。

蔵元教育長

本日は、誠にありがとうございました。

意見交換の中でもありましたように、将来を見据えたより良い教育環境の構築は本市の喫緊の課題であります。

教育委員会事務局から説明がありましたように、学力の向上や不登校の子どもたちの支援、特別支援教育の充実、そして教員の指導力の強化等多くの教育課題がございますが、義務教育課程の集大成となります中学校の3年間を最大限支援するため、中学校を先行した学校規模の適正化に向けて努めてまいりたいと考えております。

教職員一人一人が丁寧に子どもたちと向き合い、持てる力を十分に発揮できる充実した教育環境を構築できるようにしていくため、教育委員会としましても今後も引き続きまして、市長部局と連携し、まちづくりの方向性を踏まえた整備方針の策定に向けて取組んでまいりたいと考えております。

今後ともご協力をどうぞよろしくをお願いいたします。

北原教育部長

蔵元教育長、ありがとうございました。

それでは、本日の議題は全て終了いたしました。

これをもちまして、令和5年度中間市総合教育会議を閉会いたします。

皆さま、ありがとうございました。

[閉会時刻：15時53分]